能の音曲伝書の実践的な解釈ー謡鏡を読む

研究代表者 : 藤田隆則　　プロジェクト研究

共同研究員 : 上野正章（本学客員研究員）、恵阪悟（帝塚山大学）、鎌田紗弓（東京文化財研究所）、近藤静乃（東京藝術大学）、柴佳世乃（千葉大学）、高橋葉子（本学客員研究員）、田草川みずき（千葉大学）、長田あかね（神戸女子大学）、丹羽幸江（本学客員研究員）、坂東愛子（伝音センター共同研究員）、吉岡倫裕（伝音センター共同研究員）

開催趣旨：

能楽伝書の研究は、従来、国文学者を中心にして行われてきたが、内容は「文学」ではなく「音楽･音曲」である。その内容を読み解くためには、声明や雅楽など、能楽に先行する音楽史的な知識や、能楽の成立以降に生成・発展した劇場音楽などの音楽史的な知識をも、寄せ集めることが必要である。さらに、実践家の口頭伝承の中で蓄積されてきた実践的な知識、あるいは国や地域をこえた音楽伝承間の比較も、その読み解きに光を与えうる。本研究では、国文学者による長い校訂の歴史をへた上で刊行されている能楽伝書を、さまざまな音楽実践を参照しながら、大胆に解釈（現代語訳）して、世に問うことを目指す。

2022 年度の研究会

時間：13 時―17 時　（オンライン開催）

月日:5 月 6 日、6 月 3 日、6 月 26 日、7 月 8 日、8 月 5 日、9 月 2 日、9 月 21 日、10 月 7 日、11 月 4 日、12 月 2 日、1 月 6 日、2 月 3 日、3 月 3 日

儒教と文人の世界観に展開する「楽」思想の諸相研究

研究代表者：武内恵美子　　プロジェクト研究

明木 茂夫（中京大学 教授）
遠藤 徹（東京学芸大学 教授）
小林 龍彦（前橋工科大学 名誉教授）
小島 康敬（国際基督教大学 教授）
高橋 博巳（金城学院大学 名誉教授）
平木 實（天理大学 元教授）
南谷 美保（四天王寺大学 教授）
山寺 美紀子（國學院大學北海道短期大学部 兼任講師）
渡辺 信一郎（京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センター 元所長）
趙 維平（上海音楽学院 教授）
唐 権（華東師範大学外国語学院 助教授）
平間 充子（京都市立芸術大学 客員研究員）
中尾 友香梨（佐賀大学 教授）
吉岡 倫裕（京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センター 共同研究員）
榧木 亨（南昌大学 講師）
孟 祥健（京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センター 共同研究員）
山田淳平（奈良県文化財研究所、研究員）

研究の趣旨（目的・意義・特色など）

本研究は、平成 25 年度から 4 年間かけて行ってきた共同研究「近世日本における儒学の楽思想に関する思想史・文化史・音楽学的アプローチ」の成果を踏まえ、更に展開させるものである。

儒教は古代中国に端を発し、東アジア全体に波及し多大な影響を及ぼした思想、宗教である。その中心的役割の一軸として「楽」思想があるが、楽思想は単に音楽の思想にとどまらず、政治、文学、歴史、数学、天文学と関連し、また儒学を超えた、文人世界の形成にも大きく影響を及ぼした。

日本にもその影響は及び、古代から近世にかけて、研究・普及がなされてきた。また、江戸時代には、文人的概念が定着し、日本に於いても独自の世界観が成立、展開した。

これら楽思想を通して展開した文化に共通する、普遍的な世界観を、様々な角度から見出し、東アジア世界との対比も含めた文化の諸相を多角的に見出すことを目的とする。

この種の研究は近年ようやく行われるようになってきたが、分野を超えた交流はなかなか実現できない。共同研究の形態で、思想史、文化史、音楽学、歴史学、数学史など、学際的に 1 つの話題を議論する場を提供し、それぞれの分野の認識を深めつつ、ジャンルを超えた文化の概念を探ることが本研究の意義であり特徴である。

近年の新型コロナウイルス感染症の影響で、共同研究会の開催ペースが落ちており、もう 1 年継続して報告へ向けての準備に入りたいと考えている。

2022 年度の研究会

第 1 回研究会
12 月 4 日（日）14：00 ～ 16：00（予定）
報告者：孟詳健（京都市立芸術大学大学院修了生）
報告タイトル：荻生徂徠の楽律の研究―琴律を中心に

第 2 回研究会
12 月 18 日（日）14 時より
報告者：遠藤徹先生
報告タイトル：前近代の日本における「音楽」の語の用例と概念について

第 3 回研究会
日時：1 月 8 日（日）14：00 ～ 16：00
報告者：唐権先生
タイトル：唐通事劉梅泉とその交友圏

第 4 回研究会
1 月 29 日（日）14：00 ～ 16：00
報告者：南谷美保先生
報告タイトル：江戸時代における胡飲酒の再興とその後をめぐって

第 5 回研究会
2 月 12 日（日）14：00 ～ 16：00
報告者：山田淳平先生
報告タイトル：江戸の正楽論から明治の国楽論へ―日本近世～近代の音楽観をめぐって―

第 6 回研究会
2 月 19 日（日）　14：30 ～ 16：30
報告者：平間充子先生
報告タイトル：日本古代における雅楽寮・近衛府の奏楽と朝廷内の秩序　- 儀礼研究の視点から

第 7 回研究会
3 月 5 日（日）14：00 開始
報告者：中川優子先生
報告タイトル：新井白石における雅楽と猿楽

第 8 回研究会
3 月 19 日（日）14：00 ～ 16：00
報告者：明木茂夫
報告タイトル：安倍季良の巻子本「尊詔親王御筆」について

部会開催
2022 年 4 月 18 日（月）、6 月 6 日（月）、7 月 4 日（月）、8 月 29 日（月）、10 月 17 日（月）、11 月 27 日（日）、12 月 26 日（月）、
2023 年 1 月 16 日（月）、3 月 26 日（日）

日本音楽研究における基礎的資料の再検討と新たな活用に向けて

研究代表者：竹内有一　　共同研究

共同研究員：青木由貴（邦楽演奏家、京都市立芸術大学非常勤講師）、大西秀紀（本学客員研究員）、神津

武男（早稲田大学演劇博物館招聘研究員、本学客員研究員）、小西志保（邦楽演奏家、竹内研究室研究嘱託員）、常岡亮（邦楽演奏家、常磐津協会理事）、出口実紀（大阪芸術大学非常勤講師）、配川美加（東京藝術大学非常勤講師）、福持昌之（京都市文化市民局文化芸術都市推進室文化財保護課主任・文化財保護技師）、細野桜子（邦楽演奏家、新内協会正会員）、前島美保（東京藝術大学非常勤講師）、村井陽平（福井工業大学准教授）

◆趣旨と概要

いくつかの分野における基礎的資料の学術的再検討を行い、それらを様々な局面で活用するための方策を導くことを目的とする。音楽芸能史、京都の民俗芸能、楽器研究などにおける諸課題に焦点を当て、課題ごとにチームを組んで、以下のような調査・研究を実施した。

（1）常磐津家元旧蔵『常磐種』の基礎的研究

江戸期代々の常磐津家元が書き継いだ上演記録集『常磐種』（ときわぐさ、全５冊）を研究対象資料とし、その総合研究を 2022 年度から 10 年かけて実施するプロジェクトである。各年度末に成果を報告書として刊行する。『常磐種』および研究内容の委細・意義・特色・成果の委細については、年度ごとの下記報告書を参照いただきたい。報告書は、伝音センターweb サイト「伝音アーカイブズ」で公開予定である。

2022 年度は、主に第１冊「天之巻」の調査研究を進め、「天之巻」の影印と翻刻の編集、注釈の執筆等を行い、影印を収載する調査報告書を刊行した（『常磐種 1 天之巻（影印）』（常磐津節の伝承資料に関する調査報告書 2022 年度）、2023 年３月、常磐津節保存会発行、文化庁助成事業）。

（2）岸沢三蔵著『老の戯言』の発展的研究

2022 年３月に刊行した『『老の戯言』（注釈）―『都の錦・老の戯言』その三―』（常磐津節保存会発行）に掲載できなかった「時代世話混雑の部」の注釈を作成するため、当該部分の調査研究を深めて注釈原稿を作成し、紀要に投稿する計画を立てた。十分に実施できなかったので、2023 年度に持ち越す予定である。

（3）日本伝統音楽に関する江戸期史料の書誌学的研究

前年度に引き続き、日本伝統音楽に関する文献資料（謡本・浄瑠璃本・うた本、理論書・歴史書など）について、それらの歴史的・学術的意義を再検討するため、書誌的な側面に着目しながら、原本や参考文献の調査収集等を行った。成果の一部は、JSPS 基盤研究（B）20H01205「新出コレクション「西村公一文庫」の目録作成と江戸時代の日本伝統音楽の資料学的研究」（研究代表者：竹内有一）に基づいて長期計画で準備を進めている西村文庫公開の際に活用する予定である。また、神津客員研究員による西村文庫本および近松半二浄瑠璃本の展観にかかる研究協力を行った。

（4）日本伝統音楽研究センター収蔵楽器の基礎的研究

国選定保存技術「雅楽管楽器政策修理」保持者の山田全一氏の御遺族の希望により、伝音センターに収蔵されることになった、雅楽器およびその製作用具（山田資料）の整理を進め、その全体像の把握を進めるとともに、学術的意義を考察した。その内 813 点について、2023 年に京都市文化財保護審議会により京都市有形民俗文化財「京都の雅楽器製作用具」として登録されるという成果を得た。山田資料の保存および公開・活用については、2023 年度以降も引き続き検討を進める予定である。

（5）崇仁お囃子会と柳原六斎念仏

崇仁祭り囃子の調査研究については、2022 年度に公開講座を主催し、一定の成果を得たため、今年度は竹内研究室として崇仁お囃子会をサポートする社会貢献活動のみを継続する予定であった。しかし、崇仁祭り囃子のルーツである柳原六斎念仏の「四つ太鼓」等の演目復活に向けて、他地域の六斎念仏伝承者の協力を得る必要性が高まったため、他地域の六斎念仏の見学、他地域の六斎念仏伝承者を交えた稽古サポートなどの実践的取り組みを行った。

（6）三味線革張りの実践的研究

三味線革張りの実践的研究については、2019 年度から着手し、紀要 17 号（2020 年）にその経過報告を掲載した。コロナ禍により研究を中断していたが、実演家から研究参加の要望を受け、年度末近くなって久しぶりに革張りを試行することにした。2019 年度

の研究と経験を踏まえ、今年度は初めて三味線職人を協力者として招き、職人の基本的な製作技術や独自の工夫について理解を深めながら、革張りを実践した。革張りに関し成果をまとめる予定は今のところないが、革張り実践を通じて、一般的な楽器学の観点では得られない、三味線という楽器の特性、なぜ革である必要があるのか、という根源的問いかけを解くヒントが得られつつある。将来的には、三味線革張りを体験できる世界唯一の大学研究室、研究センターとして、実演家・職人・業界・地域産業・文化庁等と協同しながら、三味線革への理解と認知を高めるとともに、原材料の安定供給と多様化に貢献し、三味線音楽のさらなる発展に寄与したい。

◆活動記録

2022年4月15日（金）13時-17時、場所：新研究棟805研究室（第1回）、「今年度の研究計画1」（小西・竹内）

2022年4月22日（金）10時-14時、805研究室（第2回）、「今年度の研究計画2」（小西・竹内）

2022年4月29日（金）13時-17時、805研究室＋オンライン（第3回）、「今年度の研究計画3」（神津・小西・竹内）

2023年3月20日（月）10時-18時、大阪国立文楽劇場小ホール（第66回A班）、今藤政太郎主催「映像視聴とおはなしの会：今藤政太郎ぼくがいただいた たからもの in 大阪」への協力（進行：竹内、お話：今藤政太郎・尾上菊見・桐竹勘十郎、企画進行補佐：今藤政貴）

（1）常磐津家元旧蔵『常磐種』の基礎的研究

2022年5月7日（土）10時-14時、805研究室＋オンライン（第4回）、「『常磐種』調査および報告書作成準備1」（神津・小西・竹内・前島）

2022年5月13日（金）10時-14時、805研究室＋オンライン・601研究室（第6回）、「板木シンポジウムの計画」

「『常磐種』調査および報告書作成準備2」（小西・竹内・常岡）

2022年5月20日（金）13時-17時、805研究室＋オンライン（第7回）、「『常磐種』調査および報告書作成準備3」（小西・竹内・配川）

2022年5月23日（月）13時-17時、805研究室（第8回B班）、「「『常磐種』の画像データ処理1」（小西）

2022年5月27日（金）13時-17時、805研究室＋オンライン（第9回）、「『常磐種』調査および報告書作成準備4」「大阪古典会出品資料について」（神津・小西・竹内・細野）

2022年6月3日（金）13時-17時、805研究室＋オンライン（第10回）、「『常磐種』調査および報告書作成準備5」（神津・小西・竹内・細野）

2022年6月10日（金）10時-14時、805研究室（第11回B班）、「『常磐種』調査および報告書作成準備6」（小西）

2022年6月17日（金）13時-17時、805研究室＋オンライン（第12回）、「『常磐種』調査および報告書作成準備7」（神津・小西・竹内・細野）

2022年6月24日（金）13時-17時、805研究室（第13回）、「『常磐種』調査および報告書作成準備8」（小西・竹内・細野）

2022年6月25日（土）15時-17時、805研究室（第14回A班）、「『常磐種』調査および報告書作成準備9」（小西・竹内・常岡）

2022年6月26日（日）11時-13時、16時-19時、竹内自宅＋オンライン（第15回）、「『常磐種』の読み合わせと翻刻1」（神津・小西・竹内・常岡・配川・前島）

2022年7月15日（金）13時-17時、805研究室（第18回）、「『常磐種』調査および報告書作成準備10」（小西・竹内）

2022年7月18日（月）10時-14時、オンライン（第19回）、「『常磐種』の読み合わせと翻刻2」（神津・小西・竹内・常岡・配川・前島）

2022年7月22日（金）13時-17時、805研究室（第20回）、「『常磐種』調査および報告書作成準備11」（小西・竹内・細野）

2022年7月29日（金）13時-17時、805研究室＋オンライン（第21回）、「『常磐種』調査および報告書作成準備12」（小西・竹内）

2022年8月8日（月）10時-14時、オンライン

（第 24 回）、「『常磐種』の読み合わせと翻刻 3」（神津・小西・竹内・常岡・配川・前島）
2022 年 8 月 12 日（金）13 時 -17 時、805 研究室（第 25 回）、「『常磐種』調査および報告書作成準備 13」（小西・竹内）
2022 年 8 月 19 日（金）13 時 -17 時、805 研究室（第 26 回）、「『常磐種』調査および報告書作成準備 14」（小西・竹内）
2022 年 8 月 26 日（金）13 時 -17 時、805 研究室（第 27 回）、「『常磐種』調査および報告書作成準備 15」（小西・竹内）
2022 年 9 月 2 日（金）13 時 -17 時、805 研究室（第 28 回）、「『常磐種』調査および報告書作成準備 16」（小西・竹内・細野）
2022 年 9 月 5 日（月）10 時 -14 時、オンライン（第 29 回）、「『常磐種』の読み合わせと翻刻 4」（神津・小西・竹内・常岡・配川・前島）
2022 年 9 月 9 日（金）13 時 -17 時、805 研究室・601 研究室（第 30 回）、「『常磐種』調査および報告書作成準備 17」「伝音セミナーの開催準備」（神津・小西・竹内）
2022 年 10 月 3 日（月）10 時 -14 時、601 研究室＋オンライン（第 35 回）、「『常磐種』の読み合わせと翻刻 5」（神津・小西・竹内・常岡・配川・前島）
2022 年 10 月 31 日（月）10 時 -14 時、オンライン（第 40 回）、「『常磐種』の読み合わせと翻刻 6」（神津・小西・竹内・常岡・配川・前島）
2022 年 11 月 28 日（月）10 時 -14 時、オンライン（第 46 回 A 班）、「『常磐種』の読み合わせと翻刻 7」（神津・小西・竹内・常岡・配川・前島）
2023 年 1 月 6 日（金）13 時 -17 時、805 研究室（第 53 回）、「『常磐種』調査報告書の入稿作業 1」（小西）
2023 年 1 月 20 日（金）13 時 -17 時、805 研究室（第 57 回）、「『常磐種』調査報告書の入稿作業 2」（小西・竹内）
2023 年 2 月 3 日（金）13 時 -17 時、805 研究室（第 58 回）、「『常磐種』調査報告書の入稿作業 3」（小西・竹内・細野）
2023 年 2 月 17 日（金）13 時 -17 時、805 研究室（第 60 回）、「『常磐種』調査報告書の入稿作業 4」（小西・竹内）
2023 年 2 月 24 日（金）13 時 -17 時、805 研究室・601 研究室（第 61 回）、「『常磐種』天之巻の翻刻と注釈 1」（小西・細野）
2023 年 3 月 20 日（月）13 時 -17 時、805 研究室（第 66 回 B 班）、「『常磐種』天之巻の翻刻と注釈 2」（小西、細野）

(3) 日本伝統音楽に関する江戸期史料の書誌学的研究

2022 年 5 月 12 日（木）13 時 -17 時、805 研究室・601 研究室（第 5 回）、「西村文庫調査状況のまとめ」（神津・小西・竹内）
2022 年 7 月 1 日（金）13 時 -17 時、805 研究室・601 研究室（第 16 回）、「納品された芝居番付・摺物の書誌的調査 1」（神津・小西・竹内・細野）
2022 年 7 月 8 日（金）13 時 -17 時、805 研究室・601 研究室（第 17 回）、「納品された芝居番付・摺物の書誌的調査 2」（神津・小西・竹内・細野）
2022 年 9 月 16 日（金）13 時 -17 時、805 研究室（第 31 回）、「常磐津節の板木研究シンポジウム準備 1」（小西・竹内）
2022 年 9 月 20 日（火）13 時 -17 時、805 研究室（第 32 回）、「常磐津節の板木研究シンポジウム準備 2」（小西・竹内、オブザーバー 2 名）
2022 年 9 月 26 日（月）13 時 -17 時、805 研究室（第 34 回）、「常磐津節の板木研究シンポジウム準備 3」（小西・竹内）
2022 年 10 月 10 日（月）18 時 -22 時、オンライン（第 36 回）、「伝音セミナーの準備 1」（神津・小西・竹内）
2022 年 10 月 13 日（木）10 時 -14 時、601 研究室・合同研究室 2（第 37 回）、「伝音セミナーの準備 2」（神津・小西・竹内）
2022 年 10 月 19 日（水）13 時 -17 時、オンライン（第 38 回）、「常磐津節の板木研究シンポジウム準備 3」（小西・竹内・常岡・前島、オブザーバー 2 名）

2022年10月24日（月）13時-17時、オンライン（第39回）、「伝音セミナーの記録と課題考察」（神津・小西・竹内）

2022年11月7日（月）13時-20時、601研究室・7階展示スペース（第41回）、「近松半二浄瑠璃本の展示準備1」（神津・小西・竹内、ゲスト：菅野将史）

2022年11月8日（火）10時-12時、13時-15時、601研究室・7階展示スペース（第42回）、「近松半二浄瑠璃本の展示準備2」（神津・小西・竹内）

2022年11月18日（金）13時-17時、805研究室＋オンライン（第43回）、「西村文庫に関する課題考察」（小西・竹内・細野）

2022年11月25日（金）10時-14時、805研究室（第44回B班）、「常磐津節の板木研究シンポジウム準備4」（小西）

2022年11月26日（土）14時-18時、オンライン（第45回）、「常磐津節の板木研究シンポジウム」（早稲田大学演劇博物館拠点研究と共催）（小西・竹内・常岡・前島、オブザーバー2名）

2022年11月28日（月）10時-14時、601研究室・7階展示スペース（第46回B班）、「近松半二展第2期準備1」（神津、ゲスト：菅野将史）

2022年12月2日（金）13時-17時、805研究室（第47回）、「常磐津節の板木研究シンポジウム報告書作成」（小西）

2022年12月9日（金）13時-17時、805研究室（第48回）、「常磐津節の板木研究シンポジウム記録作成、板木撮影準備」（小西）

2022年12月13日（火）13時-17時、601研究室・805研究室（第49回）、「西村文庫の義太夫節正本調査準備1」（神津・小西）

2022年12月15日（木）13時-17時、601研究室・805研究室（第50回）、「西村文庫の義太夫節正本調査準備2」（神津・小西）

2022年12月26日（月）13時-17時、601研究室・805研究室・7階展示スペース（第51回）、「西村文庫の義太夫節正本調査準備3」「近松半二展第2期準備2」（神津・小西）

2022年12月27日（火）13時-17時、601研究室・805研究室・7階展示スペース（第52回）、「西村文庫の義太夫節正本調査準備4」「近松半二展第2期準備3」（神津・小西）

2023年1月11日（水）13時-17時、601研究室・805研究室（第54回）、「西村文庫の義太夫節正本調査準備5」「近松半二展第3期準備1」（神津・小西）

2023年1月12日（木）13時-17時、601研究室・805研究室（第55回）、「西村文庫の義太夫節正本調査準備6」「近松半二展第3期準備2」（神津・小西）

2023年2月7日（火）13時-17時、601研究室・805研究室（第59回）、「近松半二展第3期準備4」（神津・小西・竹内、ゲスト：菅野将史）

2023年3月7日（火）13時-17時、805研究室＋オンライン（第64回）、「2022年度研究報告：常磐津節正本板元坂川屋の出版活動」（早稲田大学演劇博物館拠点研究と共催）（小西・竹内・細野、オブザーバー1名）

2023年3月17日（金）13時-17時、805研究室＋オンライン（第65回）、「倉田喜弘旧蔵資料に関するミーティング」（大西・神津・小西・竹内・細野）

2023年3月28日（火）13時-17時、601研究室・805研究室（第67回）、「近松半二展第3期準備5」（神津・小西・細野、ゲスト：菅野将史）

(4) 日本伝統音楽研究センター収蔵楽器の基礎的研究

2022年5月23日（月）13時-17時、合同研究室1（第8回A班）、「山田雅楽資料の文化財登録に向けて1」（竹内・出口、オブザーバー2名）

2022年6月10日（金）10時-14時、合同研究室1＋オンライン（第11回A班）、「山田雅楽資料の文化財登録に向けて2」（竹内・出口、ゲスト：伊達仁美、オブザーバー2名）

2022年8月3日（水）10時-14時、合同研究室1（第22回A班）、「山田雅楽資料の文化財登録に向けて3」（竹内・出口、ゲスト：伊達仁美、オブザーバー2名）

2022年9月21日（水）10時-14時、合同研究

室１＋オンライン（第 33 回）、「山田雅楽資料の文化財登録に向けて４」（竹内・前島、ゲスト：伊達仁美、オブザーバー２名）

2022 年 11 月 25 日（金）10 時 -14 時、合同研究室１＋オンライン（第 44 回 A 班）、「山田雅楽資料の文化財登録に向けて５」（竹内・出口・前島、ゲスト：伊達仁美、オブザーバー２名）

（5）崇仁お囃子会と柳原六斎念仏

2022 年 6 月 25 日（土）18 時 -19 時、上京区福正院集会場（千本六斎稽古場）（第 14 回 B 班）、「六斎念仏の四つ太鼓について」（青木・小西・竹内、オブザーバー４名）

2022 年 8 月 3 日（水）10 時 -14 時、805 研究室（第 22 回 B 班）、「崇仁四ツ太鼓の奏法調査、譜面作成」（青木・小西、ゲスト：吹田哲二郎）

2022 年 8 月 4 日（木）17 時 -21 時、下京青少年活動センター会議室（第 23 回）、「崇仁四ツ太鼓の復曲サポート」（青木・小西・竹内、ゲスト：吹田哲二郎）

2023 年 1 月 20 日（金）13 時 -17 時、805 研究室（第 56 回）、「崇仁祭り囃子で使用する楽器用具の製作と補修について」（小西・竹内・細野・村井）

以上のほか、崇仁お囃子会の月例稽古（毎月第 1 木曜、19 時 -20 時、下京青少年活動センター会議室）に参加し、篠笛の修得、子供への伝承サポート、「四ツ太鼓」復活に向けた試演、デッサンによる稽古の記録などを実施した（小西・竹内・学生数名）。

（6）三味線革張りの実践的研究

2023 年 2 月 28 日（火）13 時 -17 時、研修室 2（第 62 回）、「「三味線革張りにおける職人の技術継承 1」（小西・竹内・村井、ゲスト：中西孝幸、オブザーバー数名）

2023 年 3 月 2 日（木）13 時 -17 時、研修室 2（第 63 回）、「「三味線革張りにおける職人の技術継承 2」（小西・竹内・細野、オブザーバー数名）

様式分化をとげた雅楽を対象とする伝承実態調査

■ 研究代表者：田鍬智志　　共同研究

■ 研究期間：2021 年度～ 2023 年度予定

共同研究員：上野 正章（京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センター客員研究員）、志川 真子（総合研究大学院大学文化科学研究科比較文化学専攻博士後期課程）、Andrea GIOLAI（ライデン大学人文学部日本学科講師）、田鍬 智志、出口 実紀（大阪芸術大学芸術学部音楽学科非常勤講師）、前島 美保（東京藝術大学音楽学部非常勤講師）、増田 真結（京都教育大学教育学部准教授）、松尾 象空（オブザーバー／青葉山松尾寺住職）

＊所属は 2023 年 3 月現在

■ 趣旨：全国各地で伝習されている雅楽のなかには、宮内庁楽部・南都楽所・四天王寺楽所雅亮会などの「標準的雅楽」の旋律・リズムとは著しく様式の異なる雅楽が伝承・伝習されている。舞鶴・松尾寺佛舞の付随雅楽は、知られている稀有な例であるが、そのような雅楽は往々にして、標準的雅楽との相違が認知されていないために、民俗芸能調査などで記録対象とされることが皆無に等しく、分布・伝習の実態が全く知られていない。そのような様式分化した雅楽は、音楽伝承における様式分化のメカニズムを考えるうえでも、また、「標準的雅楽」の過去の音楽様式をさぐるうえでも、貴重な伝承である。しかし、そのような様式分化の著しい雅楽は、後継者の人材不足による消滅化の惧れもさることながら、往々にして、スタンダードな雅楽家の介入や、SNS などの情報源の普及によって、その音楽が「標準化」してしまうことも危惧される。よって、本調査研究では、そのような様式分化の著しい雅楽の伝承の実態を調査し、その音楽を詳細に記録する。本調査研究でとりあげる雅楽は以下のような原則として、以下の要素を満たすものを指す。

1）伝承曲に古典雅楽の曲名を冠するもの。（＊したがって吉備楽などは原則として調査対象外とする）

2）編成に横笛だけでなく篳篥（くわえて笙）がふくまれるもの。（＊したがって北陸・東北・東海地方な

どに伝承される舞楽系芸能（稚児舞など）の付随音楽などは原則として調査対象外とする）
3）標準雅楽の旋律、奏法、リズムとは著しくことなるもの。

■ 2022 年度調査成果の概要

2022 年度は、コロナ禍も少し落ち着き、祭礼法会の再開も各地で行われるようになったことから、資料調査と併行して、現地調査を本格的に開始した。特に滋賀県近江盆地には、かつては集落ごとに雅楽が伝承され、何か所かで雅楽の伝承が存続していることがあきらかになった。また、鳥取県湯梨浜町の香宝寺や遠州森町の山名神社の雅楽は、江戸期にまで遡りうる伝承であることが明らかになった。

■ 調査活動記録

04.03 至誠雅楽会調査（日吉大社大榊神事）：田鍬。
04.14 至誠雅楽会調査（日吉大社山王祭例祭渡御）：田鍬。
04.26 オンライン総会：上野・前島・GIOLAI・松尾・田鍬。
05.05 松尾寺仏舞練習日オンラインインタビュー：上野・前島・GIOLAI・出口・松尾・田鍬。
05.09 録音聞きおこし作業等：上野。
05.12 滋賀県立図書館資料調査：上野。
05.15 伶人会調査（野洲市 御上神社春季大祭）：上野。
05.20-21 録音聞きおこし作業等：上野。
05.26 伝音図書室資料調査：上野。
06.26 均調社調査（守山市赤野井 諏訪家屋敷半夏生鑑賞会コンサート）：上野・田鍬。
06.30 伶人会調査（野洲市 御上神社夏越大祓式）：上野。
07.12-13 録音聞きおこし作業等：上野。
07.16-17「伶士」調査（遠州森町 山名神社天王祭）・雅楽の方の調査（藤枝市 六所神社祇園祭）：志川・田鍬・藤川桐人 [ゲスト調査員]（以上、現地調査）、上野・前島（以上、オンラインによる聞き取り調査参加）。
10.10 伶人会調査（野洲市 御上神社ずいき祭）：上野・田鍬。
10.05 伝音図書室資料調査：志川。
10.12-14 録音聞きおこし作業等：上野。
11.16 均調社調査（守山市赤野井 西別院報恩講）：上野・田鍬。
11.23 小篠原樂人調査（野洲市 新川神社新嘗祭）：上野・田鍬。
11.28-29 録音聞きおこし作業等：上野。
12.10-11 香宝寺雅楽会調査（湯梨浜町 香宝寺報恩講）：田鍬（現地調査）、上野・前島・松尾（以上、オンラインによる聞き取り調査参加）。
12.18 均調社調査（練習日、於守山市赤野井 諏訪家屋敷）：上野・田鍬（以上、現地調査）、出口・松尾（以上、オンラインによる聞き取り調査参加）。
12.29-30 録音聞きおこし作業等：上野。
01.11 中主町雅楽会（井口雅楽会＋八夫雅楽会）聞き取り調査（野洲市役所 2 階）：上野・田鍬。
01.28 滋賀県立図書館資料調査：上野。
01.30-31 録音聞きおこし作業等：上野。
03.13 資料所蔵館調査：増田。
03.15 録音聞きおこし作業等：上野。
03.16 オンライン総会：上野・前島・GIOLAI・志川・出口・松尾・田鍬。
03.18 講明社調査（野洲市錦織寺彼岸初日法要）：上野・田鍬。
03.18 京都府立図書館資料調査：増田。
03.21 講明社調査（錦織寺彼岸中日法要）：上野・田鍬。
03.23 録音聞きおこし作業等：上野。
03.22 国会図書館関西館資料調査：増田。
03.24 講明社調査（錦織寺彼岸結願法要）：上野・前島・田鍬。
03.25 録音聞きおこし作業等：上野。
03.28 録音聞きおこし作業等：志川。

酒場と音楽

研究代表者：齋藤桂　　共同研究

共同研究員：秋山良都 京都大学／ライプツィヒ大学学術振興会特別研究員 PD)、上畑史（国立民族学博物館機関研究員）、薗田郁（京都市立芸術大学日本伝統

音楽研究センター客員研究員)、濱崎友絵（信州大学准教授)、早坂牧子（東京音楽大学等非常勤講師)、樋口騰迪（京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センター共同研究員)、矢野原佑史（京都大学アフリカ地域研究資料センター特任研究員）

■趣旨

芸術音楽や、それに基づいて構築された音楽観では、作品のもつ情報を余すことなく聴き取ることが理想とされる。そのような聴取のあり方の対極にあると言えるのが、騒がしい中で、酩酊状態になり鈍った聴覚によって音楽を楽しむ、酒場における音楽だろう。

しかし、世界の多くの地域で、酒場が音楽文化の揺籃地になってきたことは事実である。

酒場は時に、芸術音楽よりも露骨に聴衆の思想や欲望を反映させた音楽が奏でられる場でもあった。そのため、連帯感の創出や帰属意識の強調、懐旧の情の生成などにおいて、伝統音楽やそれにかかわる音楽的要素が絡むことも多い。

本共同研究では日本、ドイツ、セルビア、トルコ、イギリス、フランス、カメルーンなど様々な国・地域の様々な時代で、酒場が揺籃した音楽文化のありようを通じて、その役割や特徴を検討する。

■ 2022 年度研究会開催日

2 月 21 日

■活動

ベオグラード芸術大学からイヴァ・ネニッチ博士をゲストとして招き、セルビアの飲酒文化と音楽について講演をして頂き、その後メンバーとディスカッションを行った。